

# こころの玉手箱 5月号



## 失敗しても「NEXT ONE」～敗者の笑顔が私たちにくれたもの～



詫間中学校では、毎月17日の朝の時間を利用して、全校道徳【イ～なの日】を実施しています。今回は、スケートボード女子ストリートにフィリピン代表で出場したマーヅリン・アルダ・ディダル選手について紹介したいと思います。決して有名ではなかったディダル選手でしたが、競技が始まると多くの人たちが彼女に夢中になりました。その後、SNSやメディアでも注目され、TIMES誌が選出する『最も影響力のある世界の10代』にもリストアップされました。

### ☆ 1年生 ☆

- ☆ 自分だったら、失敗したらディダル選手みたいに笑顔でいられないけどディダル選手は結果がどうであれずっと笑顔でいるから、テレビで見ている人も笑顔でいれると思った。
- ☆ スポーツだけでなく、学校の行事でも失敗に終わることはある。それを「ああ、だめだったな。」で終わらさず、「次は頑張るぞ!」と、とにかく気持ちをポジティブにとらえることが大切だと思った。
- ☆ オリンピックというとても大きな舞台で、緊張すると思うけど、勝敗よりスポーツを楽しむことを大切にしていびっくりした。私も、ディダル選手のように笑顔で励ましたり、なぐさめられる人になりたいと思った。
- ☆ ディダル選手は自分だけでなく、他の人の時も他の人が成功した時は他の人より喜んでいたので、私も友達やいろんな人の心を大切にしていきたいと思いました。
- ☆ 失敗しても笑顔で演技に取り組み、他人の成功や失敗を、精一杯応援する姿勢は、僕たちに感動だけでなく、勇気を与えてくれた。他人を思うことは、大切だと改めて、思いました。

### ☆ 2年生 ☆

- ☆ ライバルはよりよい記録に挑むための仲間、という考えが心に残りました。自分だけでなく、競いあえる仲間がいるからこそ、ディダルさんは上を目指して頑張れるんだなと思いました。
- ☆ この選手は別のチームを応援したり、励ましたりしてすごかったし、自分とは違うと思った。もうすぐ体育祭があるので、私も失敗を責めたり、相手チームのミスを楽しんだりせず、みんなで体育祭を楽しみたい。
- ☆ ディダル選手は自分の勝利のために相手を蹴落とすようではなく、仲間として励まし、支えていて、これが本当のスポーツマンシップだと思った。そしてチャレンジをしてもマイナスにとらえず、プラスにとらえるという心を見習っていききたいです。
- ☆ 私を失敗しても常に笑顔で競技を終えたり、ライバルに声をかけたりする人が世界にたくさんいるといいと思った。オリンピックでは、7位だったけど、人として1位だと思った。私も相手を見て励ましたり、勇気づけたりしたいと思った。

### ☆ 3年生 ☆

- ☆ 他校と練習試合で点を取ったら喜んでハイタッチをすることが多かったので、ディダル選手のように思いやる心の幅を広げることを前提にしていきたい。
- ☆ 相手に勝ちたい時は、相手のミス願ってしまうけど相手を励まし、成功してほしいと願うなんて自分が不利になることなのにすごいと思った。失敗しても諦めず挑戦する姿勢もすごい。
- ☆ オリンピックという大きな舞台で周囲の人を励ますことができることがすごい。失敗しても常に笑顔なのは、ディダル選手に思いやる心があふれているからなんだと思う。
- ☆ 成功も失敗も楽しめるのは本当にスケートボード競技を愛していないとできないことだと思う。
- ☆ この話を聞いて、自分が失敗しても成功しても相手を不快な思いをさせる行動や言動はやめたいと思った。
- ☆ 失敗しても笑顔でいられるというのは本物のアスリートだと思う。ライバルと共に勝ち負けを分かち合うディダル選手のような人になりたい。
- ☆ ライバルの技が決まれば自分のことのように喜ぶことができるのは、相手を認めているからだと思う。



### 保護者の皆さんへ

お子様と意見の交換をして、感想などをお気軽にお寄せください。

----- 切り取り線 -----

保護者返信欄 (お子さんを通じて担任までお渡し下さい。)

# 失敗しても「NEXT ONE」～敗者の笑顔が私たちにくれたもの～

令和4年度 5/17(火)実施

メダルを獲得した選手はもちろん、メダルを逃した選手の「悔し涙」もまた、見る者の涙を誘うオリンピック。その中でも、2021年に行われた東京オリンピックではスケートボード女子ストリートのフィリピン代表マージン・アルダ・ディダル選手の『笑顔』が多くの人々を魅了した。

スケートボード女子ストリートでは、13歳の西谷選手の金メダルや16歳の仲山選手の銅メダルという、若き力が日本の未来を感じさせていた。その表彰台にフィリピン代表のマージン・アルダ・ディダル選手の姿はなかったが、彼女の試合に臨む姿勢が素晴らしいと話題になった。

失敗しても楽しげな笑顔。それも1回や2回ではない。何度失敗しても必ず笑顔で演技を終える。「たとえどんな失敗でも、それは次への通り道。だからこそライバルたちの存在も、よりよい記録に挑むための『仲間』なのだ。」と彼女は語っている。その証拠に今回も、トリックで転倒してしまった選手を励まし、一方でライバルが自分を超越する大技を決めるとすぐに駆け寄って、自分のことのように大喜びしてはしゃぐ。他の選手が失敗したら、「ああっ」って言って、「次は乗れる!」とか「今のめっちゃめっちゃ惜しかった」とか、一人一人に駆け寄ってハグをして励ましていた。

採点競技(特に個別に試技を行う種目)では、ライバルのミスが自分の順位には有利に動く。勝利に最大の価値を置くならば、自分(自国)以外の失敗を願うことは別段浅ましいことではない。競技によっては、相手にプレッシャーを与えて追い込むことも駆け引きとしてひとつのスキルに数えられるかもしれないのだが、彼女は違う。そんなことは全く考えていない。全員がベストなパフォーマンスを出して、その上で競いたいというスポーツの本質を大切にしているからだ。

ディダル選手自身の結果は7位だった。最後のトリックのチャレンジに失敗し、転んで尻もちをついたが、両手を突き上げて「アイムオーケー!」と無事をアピールし、「アリガトー!」とお辞儀をして競技を終えた。「スケートボードは人生と同じで、何度失敗しても立ち上がって進み続けるもの。結果がどうであれ、最高の舞台で、限界へ挑めることが嬉しくて仕方ないのです。」と彼女は語っている。

今回のスケートボード女子ストリート競技では、「失敗を馬鹿にする空気」も「ライバルのミスを喜ぶ空気」もみじんもなく、「チャレンジする者を称える空気」、「成功の喜びを分かち合う空気」が会場中に流れていた。

オリンピックを通してディダル選手が見せてくれた成功も失敗も全力で楽しむ姿勢、チャレンジし続けることの大切さ、仲間を思いやる心を私たちも大切にしていきたい。



←技を決めた選手に駆け寄って成功と一緒に喜ぶディダル選手(右)



←失敗しても常に笑顔で競技を終える。

## 参考文献・資料

・Mrサンデー 2021. 8. 1(日)放送分

・ある外国人選手に「感動した」SNSで話題! 「敗者の笑顔」が私たちにくれたもの

(<https://news.yahoo.co.jp/articles/7c8288f07d9ec630ac3a367d67b9448fc333f690>)